

長浜市森林ディレクション審議会（令和元年度第1回）議事録

●日 時：令和元年5月30日（木）10：00～11：30

●場 所：長浜市役所1階 多目的ルーム1

●出席者：委員：8名（敬称略）

会長：滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科教授：高田 豊文

委員：滋賀北部森林組合：膽吹 憲男

委員：鳥居木材株式会社：鳥居 憲治

委員：湖北森林整備事務所：福田 公二

委員：山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会：橋本 勘

委員：林友会、自然再生士：吉井 悟

委員：滋賀県生物環境アドバイザー：村上 宣雄

委員：滋賀県猟友会長浜支部支部長：内海 來

委員：公募市民：東 逸平

欠席：公募市民：吉川 誠

市（事務局）：6名

産業観光部：大澤誠農林管理監

農林政策課：伊藤治仁課長、土田孝洋副参事、山田智洋主査

森林田園整備課：今荘和則課長、辻智士副参事

●内 容：

1. 開会

・挨拶/自己紹介

2. 議事

（1）長浜市森林ディレクション審議会規則の一部改正について

（事務局）

・組織改編により、今年度から当審議会の庶務は農林政策課で行う。

（2）本年度の当審議会の進め方について

・下記審議事項2点及び、スケジュールの説明

①長浜市森づくり計画及びアクションプランの進捗管理に関すること

②同計画・アクションプランの見直しに関すること

（委員）

・国や県の方針は如何か。市の計画との整合性は事務局がチェックするものとして、委員は意識しなくても良いか。

（事務局）

・良い。市が先行して9月末までに計画の見直しを進め、県の計画との整合は県に照会し調整する。

（3）長浜市森づくり計画アクションプランの進捗状況について

・平成30年度の施策の進捗状況について説明。6つの基本施策の達成率評価をまとめた。

■評価報告：基本施策①森林の大切さの啓発と魅力の発信

(委員)

- ・ウッドスタート支援事業は全園に配布することが基本だと考える。年次計画をもって各園に平等に配布する、できなければ公共的な場所に置くなどすべきである。全体にいきわたる体制づくりが必要。

(事務局)

- ・年次計画を持って計画的に配布していく。

(委員)

- ・目標指標の根拠は何か。達成率を上げることが目的ではないが、現実にはすべきではないか。例えば素材生産量の目標が 20,000 m³となっているが、県内全ての森林組合の実績を足しても現在 3,000 m³弱であり、目標達成は困難である。

(事務局)

- ・計画の策定当初、かなり高い目標設定をした。県の計画に則して設定した数値でもある。計画策定後に山の構成や流通状況等、現状が見えてきたので、これに則り、目指すべきところも見直すべきであると当局も判断している。

■評価報告：基本施策②市民が参加する森林づくり

(会長)

- ・里山モデル林の設置、及びモデル林を拠点とする団体の組織化という取り組みについては具体的な目標設定がないのか。

(事務局)

- ・設定当初の目的は活動を広げることであった。定量的な基準がないので、内容や指標を見直す必要がある。

(委員)

- ・企業の森づくり協定は8月に終了予定とあるが、来年度からはなくなるのか。

(事務局)

- ・パートナー協定は、県の事業であるが、延長されたと聞いている。

(委員)

- ・市の事業としてアクションプランに位置づけ、来年度の予算化は考えられるのか。

(事務局)

- ・県の事業である為、市で予算計上をしていない。
- ・協定を結んだ企業からの財政支援が必要である。CSR活動に参加できる企業の枠組みを活用している。

(委員)

- ・里山防災緩衝帯整備事業について、異常気象対策として、危険地帯の把握をすべきである。例えば民家に近い林など。山を持っていない人にも森林に興味を持ってもらえるようにすべきではないか。山を斡旋できるようにすればより身近になると思う。このような体制づくりから考えるべきである。

(事務局)

- ・指標の作り方、評価方法についても適正なものになるように検討をしていく。

■評価報告：基本施策③次代の森林を支える人づくり

(委員)

- ・自伐型林業を個人でやるのは危険である。また、現実的には自伐型では採算が合わない。森林組合の指導を受ける、複数名で機械を借りて使うなどしないと難しい。

(委員)

- ・特に台風の後始末は危険な仕事。

(委員)

- ・倒れた木の処理は素人ではできない。

(委員)

- ・倒木はチップにしかならない。

(事務局)

- ・中山間地域の農業は大規模化が難しく、協働が必要。森林も同じである。
- ・事業者はコストが合わないと入れない。

(会長)

- ・自伐型木材生産量も目標とかけ離れているので、現状に則り再考すべきでないか。

(委員)

- ・自伐型林業について、取組んでいるのは地域おこし協力隊だけか。

(事務局)

- ・地域おこし協力隊だけである。

(委員)

- ・自伐型林業を進めるグループを助成できる仕組みは無いのか。

(事務局)

- ・国の森林の多面的機能発揮対策交付金の活用のほか、市単独の助成制度の活用もできる。

■評価報告：基本施策④森林資源の利用拡大

(委員)

- ・市産材の利用について、海外にも輸出できるような計画性を持って対応しては如何か。
- ・薪ストーブについてはハウスメーカーに情報提供をすべきである。

(委員)

- ・情報が事業者にまわっていない。
- ・申請者ではなく、トータルの導入実績を調査すれば本来の薪の需要がわかるのではないか。

(委員)

- ・薪ストーブは暖房器具としてだけでなく、様々な活用方法がある。

(事務局)

- ・新築やリノベーションで薪ストーブを導入するという嗜好も増加していると理解している。

(委員)

- ・ボイラー導入に対する補助制度はあるのか。

(事務局)

- ・薪ストーブと農業用ボイラーの助成がある。
- ・ニーズは増えてきている。6次産業化の施設等にも使えるかもしれない。業務用であれば通年利用になる可能性がある。

■評価報告：基本施策⑤効率的な木材生産について

(委員)

- ・森林施業の団地化・集約化の推進は、リーダーがいると進むがそれ以外は難しい。過疎化・高齢化の為、できるだけ早くしなければならぬ。所有者が地元を離れると大変である。

■評価報告：基本施策⑥多様な森づくり

(委員)

- ・松くい虫対策の効果はあるのか。

(事務局)

- ・一定の効果はあると考えているので、維持できるように県に予算をつけてもらっている。

(委員)

- ・ナラ枯れ対策は如何か。

(事務局)

- ・湖北地域のナラ枯れは収束傾向にあると聞いている。

(委員)

- ・市有林について。余呉地区の山は活用可能な状態。大規模な運用は林家への影響が懸念される。また琵琶湖の水を守るためにも皆伐はできない。境界の確定も難しい。多面的な活用を検討して欲しい。

(事務局)

- ・余呉だけではなく、西浅井地域も同様の状況にある。環境を守りながら多面的な活用の検討が必要である。

(委員)

- ・小谷城スマート IC 周辺の 6 次産業化事業について設計は進んでいるのか。構造物をつくる際は市産材も検討して欲しい。

(4)意見・提案について

- ・提案シートで提出された意見は、検討資料として共有する。
- ・各委員のご意見を踏まえ計画と次期アクションの見直しを図っていく。

3. 閉会

以上